

『 もっとクロス！もっとユビキタス！ 』



日本赤十字放射線技師会

常任理事（企画部）

新 美 孝 永

所属：名古屋第二赤十字病院

赤十字病院は、山形、奈良、宮崎を除く全国を網羅する形で存在しており、そこで勤務する診療放射線技師にも最先端機器を取り扱う者から胸部撮影までと技術的に大きな広がりがあります。しかし、世間ではメディアを通して非常に多くの情報が溢れ、時に関係者よりも受診者の方が詳細な医学的知識を有し、その対応に困惑することもあります。その際、施設が大きいから・・・小さいから・・・という言い訳はユビキタス社会と称される現代ではもはや通用しません。ユビキタス社会とは、「いつでも、どこでも、誰でもがコンピューターネットワークをはじめとしたネットワークにつながることにより、様々なサービスが提供され、人々の生活をより豊かにする社会（Wikipediaより）」と言われております。現在、日本赤十字放射線技師会（以下日赤放射線技師会）では、多様な医療現場で勤務する会員の技術支援策として、日赤ホットライン計画（会員同士が気軽に相談できる窓口の構築）を推進中です。その一手段として、コンテンツマネジメントシステム（CMS）を搭載した双方向通信が可能なホームページ（HP）を今年6月より開設しました。CMS搭載により、全会員にIDとパスワードを配布することで、会員以外には公開できない機密情報も赤十字病院間で共有できるようになりました。また、HPへのコメント書き込みが容易にできるためリアルタイムな情報交換が可能となりました。しかしながら、この記事を読んで「こんなHPは日赤放射線技師会には必要ないのでは？」とか「ユビキタスな技師会運営なんて人間味が無い」などと年配の会員から疑問の声が上がるかもしれません。かく言う私もユビキタス社会には不慣れで、むしろ友情、信頼は「酒と喧嘩」から生まれることを信じる一昔前の人間です。しかし、全国に広く分散する会員の皆様と直接お会いして酒を酌み交わす（議論する）ことは到底できません。やはり現実的には、ネットワーク技術に頼らざるを得ません。日本赤十字社も「もっとクロス！計画」というキャッチコピーを作成し、社会、市民、時代、そして職員相互の関わりを深め、社会全体としての（赤十字）活動を推進しています。ところが、クロスするにしてもよい相手が必要となりますが、幸い本会には厳しい採用試験をパスした非常に優秀な人材が多数揃っております。各自の持つ高い能力をクロスすることでこれまでに無い新しい発想や知恵が生まれ、そのパワーは、必ずや他の職域を圧倒するものとなるでしょう。ユビキタス社会といわれる現代、赤十字病院のネット環境は急速に整備され、いつでも、どこでも接続できる状況になろうとしています。本会は、このネット活用の先駆け団体として「ユビキタスネットワークを活用し、診療および災害支援を目的とした21世紀型職域団体をめざす」という新たな目標を掲げて船出することとなりました。現在推進中の日赤ホットライン計画は、1200余名の会員の英知を集結させ、将来に向けて非常

に心強い存在になるものと考えられます。そして、その発展系として、他の職域とのクロス、さらには、いつしか世界を舞台に活躍する人材が我々赤十字の仲間から輩出されること、これが今一番の願いです。